

「望ましい人間関係をはぐくむ教育活動の実践」

～グループエンカウンターによる、生徒の人間関係づくり～

—山口市立秋穂中学校—

1 学校紹介／2 活動計画及び具体的な活動内容／3 成果と課題

実践のポイント

- ・グループエンカウンターに関する研修を充実させ、教職員の生徒理解に対する資質の向上を図る。
- ・授業や生徒活動の中で、グループエンカウンターを活用し、生徒たちの温かな人間関係を構築する。
- ・人間関係づくりに重点を置いた生徒会・委員会活動を推進する。

1 学校紹介

生徒数がほぼ200名の本校は、元秋穂町において一町一中学校として町民の学校に対する関心はまことに高く、一昨年度の11月からは公民館が同居し、公民館講座も学校の2つの部屋で行われている。地域の活動として「秋穂祭り」や「浜村杯ロードレース」に参加し、「アースディ海岸清掃」等のボランティア活動にも熱心に取り組んでいる。

小学校区は大海小学校と秋穂小学校の2校であるが、各学年1～2学級で構成されていて、クラスのメンバーが6年間ほとんど変わらない状況である。中学校ではそれぞれの小学校の生徒が一緒になって多少はそういったことが緩和されるようであるが、学級数で言えば2～3学級であるので3年間で考えれば常に同じメンバーで生活しているように感じられる。

メンバーの入れ替わりがあまりない分、良好な人間関係ができそうであるが、実際には小グループがかたまってしまって、それぞれのグループから離れて新しい仲間をつくろうとせず、グループごとに、ぎすぎすとした関係が続いていっているように思われた。そこで、そういった関係を打破するために本校では、構成的グループエンカウターの手法を取り入れて生徒の人間関係づくりに着手し、望ましい人間関係を育む教育活動の実践を行った。

2 活動計画及び具体的な活動内容

(1) 研究のねらい

秋穂中学校の教師と生徒、生徒と生徒の間に「望ましい人間関係」＝「対等な関係」「協調し合う関係」「信頼し合う関係」が築かれることによって1年間の教育活動がより充実し成果の大きいものになることを図る。同時に生徒の上に生じるさまざまな問題が、「望ましい人間関係」を生かしたかかわりにより解決していくことをめざす。

(2) 研究の仮説

- ①「構えのない気楽な関係」を築くような実践活動を行うことにより、生徒と生徒・教師と生徒の人間関係は望ましいものに変容する。
- ②「認め合い高め合う関係」を築くような実践活動を行うことにより、生徒と生徒・教師と生徒の人間関係は望ましいものに変容する。

(3) 「人間関係づくり」における、各分野でのねらいと活動内容

	特別活動・総合的な学習	道 徳	教 科
ね ら い	①教師と生徒の間に、「構えのない気楽な関係」を設定して面談を行い、お互いの立場をわかまえながらも、一人の人間として尊重しあう「対等な関係」を築いて、「信頼しあう関係」につなげる。 ②生徒同士の「対等な関係」を基盤にして、「認め合い高め合う関係」を数多くの演習を通して体験させ「信頼しあう関係」の構築をめざす。	①自分と他の違いを理解し、「違っているからいい」という心情を育てる。 ②お互いの「よい点」を認め合う活動を通して認めあおうとする態度を養う。	●学校において生徒が一日の大半を過ごすのが授業である。また、その多くの時間は生徒と教師、生徒と生徒がかかわる場でもある。 その日々の授業を生かし、教科本来の目的からはずれることなく、また目的にできうる手段で「よりよい人間関係」を築くための場として活用することをめざす。
教 師 ↑ ↓ 生 徒	●全校教育相談週間 各学期一回（1回10日間） ・担任中心に面談（1、3学期） ・全校生徒が、校長、教頭を含む全教員の中から、希望の相手を選んで面談する（2学期）。	●「道徳の時間」の活用 自他の違いを理解させ、認め合おうとする心情を育成する。 （構成的グループエンカウンターエクササイズを活用しての授業の取組みを中心に）	●授業の持ち方 発問に対し、観点がずれていたり、違っていても、一つの意見として認める。生徒の活発な発言を促し、よい点を認めるようにする。
生 徒 ↑ ↓ 生 徒	●構成的グループエンカウンターの実践 学級単位または学年単位で、エクササイズを行いながら、生徒相互の気づきを生かしながら、自己の成長を図る。 ●生徒会活動の中に、全校集会などで行うエクササイズを取り入れる。	●定期的に、エクササイズ「良いところ発見シリーズ」などを実践し、お互いのよいところを発見させるなど、互いに認め合おうとする態度を養う。	●各教科での工夫 生徒がグループで作業することで互いに支援することの大切さを体験したり、他の生徒のよさを発見できる活動を設定する。
●構成的グループエンカウンターの実践については、教師自身がお互い対等な立場で協力し合い、信頼し合う関係の中で、事前の準備から授業の実施に至るまで、たとえばエクササイズの指導案の検討、授業後の協議など、全教師で取り組むことを基本とする。特別活動や道徳においては、できるだけティームティーチングで指導する場面を多く計画する。			

(4) 年間研修計画

①学校行事と教員研修会

月	学 校 行 事	教 員 研 修 会
4	学級開き 生徒会入会式 海岸清掃活動	人間関係づくり部会

5	修学旅行・福祉体験学習 職場体験学習 ※全校レクリエーション	人間関係づくり部会
6	生徒総会 ※全校レクリエーション	研修職員会 (SGE 講師による講話・実習)
7	全校ボランティア活動	人間関係づくり部会
9	体育祭	人間関係づくり部会

10	※全校集会	研修職員会 (研究授業とSGE 講師による指導)
11	文化祭 合唱コンクール あいお祭 浜村杯ロードレース	研修職員会 (研究授業とSGE 講師による指導)
12	※全校集会	人間関係づくり部会
1	※全校百人一首大会	研修職員会 (研究授業とSGE 講師による指導)
2	※全校集会	研修職員会 (研究授業とSGE 講師による指導)
3	3年生を送る会 卒業式 全校ボランティア活動	研修職員会 1年間のまとめ

※全校単位で行う行事。構成的グループエンカウンターを取り入れた活動を仕組む。

②特別活動、道徳における、構成的グループエンカウンター、エクササイズ年間計画

月	1年 ○ねらい ●エクササイズ	2年 ○ねらい ●エクササイズ	3年 ○ねらい ●エクササイズ
4	○自己理解、他者理解 ●サインを集めよう ●インタビューゲーム	○自己理解、他者理解 ●PR大作戦	○自己理解、他者理解 ●PR大作戦
5	○自己理解、他者理解、 信頼感 ●人間知恵の輪	○自己理解、他者理解 ●以心伝心	○自己理解、他者理解 ●クラスオークション
6	○役割遂行 ●新聞紙に乗ろう	○信頼感 ●トラストウォーク	
7	○自己理解、他者理解 ●意外なあなたを発見 ●1学期を振り返って	○自己理解、他者理解 ●探偵ごっこ	○自己理解、他者理解 ●探偵ごっこ
9	○自己理解、他者理解 ●縄文人との出会い	○自己理解、他者理解 ●君がいたおかげで	○自己理解、他者理解 ●じゃんけんインタビュー
10	○自己主張 ●月世界	○自己理解、他者理解 ●私の仲間はだれ	○自己理解、他者理解 ●5つの心
11	○自己主張	○自己理解、他者理解	○自己理解、他者理解

	●おこづかいあげて	●君がいたおかげで	●私は誰でしょう
1 2	○自己理解、他者理解 ●君はどこかでヒーロー	○役割遂行 ●ホームルームミュージアム	○自己理解、他者理解 ●インタビューゲーム
1	○信頼感 ●だんまいお絵かき	○自己理解、他者理解 ●私が学校に行く理由	
2		○自己理解、他者理解 ●私が学校に行く理由	○自己理解、他者理解 ●25才の私からの手紙
3	○自己理解 ●気になる自画像	○自己理解 ●私の三面鏡	○自己理解、他者理解 ●別れの花束

(5) 実践

【1年次】

①第一回研修職員会

「SGE 講師による講話・実習」 平成16年6月23日(水)

SGE 講師 山口大学人文学部教授 林 伸 一教授

・研修内容 (構成的グループエンカウンター理論)

ア 構成的グループエンカウンター Structured Group Encounter (SGE) とは

人間関係づくりと自己発見のための集団参加体験学習。エクササイズの内容、人数、時間を構成する。米国カリフォルニア州のエスリン研究所を中心とする「ヒューマン・ポテンシャル運動」が起源で、国分康孝・国分久子が SGE として日本に紹介した。予防・開発的カウンセリング (育てるカウンセリング) の有力な方法論として、学校現場で全国的に広まってきている。

イ SGE の目標

「ふれあい」と「自己発見」を通しての参加者の「行動変容」「人間的成長」(personal-growth)

ウ 行動変容が起きるための条件

- ・参加メンバーが自分の感情・思考・行動の特徴や傾向 (偏りやとらわれ) に気づくこと
- ・それらの偏りやとらわれの意味を考えること。
- ・それらの原因を探ること。すなわち自己探索すること。
- ・「ありたいようなあり方」を試行錯誤してみること。SGE は「行動の実験室」である。
- ・無条件に受容してくれる他者 (メンバー) に会う (エンカウンター) こと。

エ SGE の必要性

- ・教育活動にふれあいと自己発見が必要：ふれあい (リレーション) のない生徒指導は支配的、権威主義に陥りやすい。
- ・自己指導力の源泉は、ふれあう仲間同士の学び (自他発見) にある。
- ・教師は援助専門職 (helping profession) である。
- ・自分の行動の特徴 (偏り) に気づく必要がある。
- ・SGE には教育分析的機能 (personal counseling を受けた効果) がある

オ SGE の原理

- ・なぜ構成するのか
- ・心的外傷 (心の傷) を予防し、突っ込んだ話し合いができるような関係 (親密な関係) を築く

- ・エクササイズのねらいとは、自己開示の触媒、自己垣解、自己受容、自己表現・自己主張、感受性、信頼体験、役割遂行、他者理解、他者受容、コミュニケーション、などを含んだ人間関係づくりにある。
- ・シェアリング (sharing) とは、分かち合い、参加メンバーの認知 (見方・受けとめ方、考え方) の修正・拡大をする場である。全体シェアリング (community group sharing) ショート・シェアリング (short sharing) などがある。

エ SGE の進め方

- ・インストラクション (instruction) エクササイズのねらいや内容、手順の説明
- ・デモンストレーション (demonstration) してみせる「百聞は一見にしかず」
- ・エクササイズ。ゲームで楽しく、エンカウンターでやさしくなることを主題に。
- ・シェアリング。開かれた質問で、「支障のない範囲で」「語れる範囲で」

オ リーダーが介入する場合

- ・参加メンバーがインストラクションから外れてエクササイズに取り組んでいる場合。
- ・シェアリングがエクササイズの延長になってしまっている場合。
- ・シェアリング場面で、あるメンバーが場を仕切るようなことをしている場合。
- ・沈黙がちなメンバーに他のメンバーが発言を強要した場合。
- ・参加メンバーが他者のプライドを傷つけるような発言をした場合。
- ・他のメンバーを指導したり、管理者ふうの口のきき方をする人がいる場合。

カ 参加者全員にて、SGE ショートエクササイズの実習



②第二回研修職員会

「研究授業と SGE 講師による指導」 平成16年10月21日(木)

- ・研究授業指導案

構成的グループエンカウンター 「私の四面鏡」指導案		本時の展開
指導者 2年2組担任 田村 実加恵 (TT) 教諭 品川 良彦		
1. 日時	10月11日(木) 5校時	
2. 学級	2年2組(24名)	
3. エクササイズ名	「私の四面鏡」(自己理解)	
4. 本時の目標	発達段階におけるこの年ごろの生徒たちは、一般的に自分を否定的に見がちである。そこで級友という鏡に写し出された自画像を見ることで自分を肯定的に見られるようにする。と同時に級友を肯定的に見ようとする姿勢がつかれるようにする。	
5. 準備するもの	プリント2枚、筆記用具	
活動の流れ	教師の指示(●)と 予想される生徒の反応(☆)	留意点

導 入	<p>●今日は自分が他の人からどのように見られているかを知り、自分の良いところを再発見しましょう。</p>	
ウオーミングアップ	<p>●今から5人の班をつくります。 袋の中にあるくじを引いて同じ数字を引いたもの同志が同じグループです。では一班からカードを引きに来て下さい。 ☆順番にくじを引きグループをつくる。</p> <p>●それではリラックスするために、グループごとにジャンケンを試してみましょう。 ルールはジャンケンをして勝った人から順に下に手を置き、一番負けた人が一番上に手を置くこととなります。一番下の人が手を抜いてたたきます。手をたたかれた人は負けです。もし誰もたたかれなかった場合は、たたけなかった人が負けです。 ☆各グループごとにウオーミングアップを2～3回やる。</p>	<p>・机を5つ迎え合わせにしたグループをつくる。</p> <p>・学級の状況から、男女別の班に設定する</p>
インストラクション	<p>●さてそれでは今日の本題に入りましょう。 クラスの仲間が、一人一人の良いところ、素敵どころ、魅力的なところを見つけ、それを伝え合うことを通じて、今までとは違う自分のイメージに気づいたり、あらためて自分の良さを発見しましょう。</p> <p>●今から一人に2種類ずつのプリントを渡すので各グループでさっきのゲームで一番負けた人は取りにきてください。 ☆一名がプリントを取りに米て、グループに配る。</p> <p>●まず、2枚のプリントにグループ全員の名前を書きなさい。</p>	<p>・2種類のプリントは色違いのほう説明しやすく混乱もないと思われる。</p>
エクササイズ	<p>●プリントには1から54までの言葉が並んでいます。先生が読み上げますので、自分にあてはまりそうな言葉があったら、プリント「みんなから見た私」の「私から見た私」の欄に○をつけてみましょう。あまり考えすぎずに、そうだな・そうかもしれない、と思うものに3つから5つ○をつけてみましょう。 それでは、はじめましょう。</p> <p>☆各自、○をつける。</p> <p>●今度はグループのメンバーについてやってみましょう。 先程と同じ様に1から54までの言葉が並んでいます。さっと見てメンバーにあてはまりそうな言葉があったらプリント「私から見たみんな」の「私から見た○○さん」の欄に○をつけてみましょう。余り考えすぎずに、そうだな・そうかもしれない、と思うものに3つから5つ○をつけてみましょう。 時間は5分ぐらいにしたいと思います。始めましょう。</p> <p>☆各自、○をつける。</p> <p>●さっきのゲームで勝った人に一人ずつ順にその人がつけたイメージの番号を伝えます。伝えてもらった本人はそれを聞いて、プリント「みんなから見た私」のその番号の欄に○をつけます。 今は理由は言わなくていいです。聞いた本人も今は理由は尋ねないようにしましょう。次に同じ様に右隣の人が一人ずつ</p>	<p>○をつけることに遠慮や抵抗がある場合も考えられるので、指導者が自己開示的に例を示し安心感を伝える。</p> <p>・語彙の難しいと思われる項目については解説を加える。(TT)</p> <p>・時間については進度を把握しながら幅を持たせる。</p> <p>・グループ、個人の状況に応じ</p>

	順に番号を伝え、聞いた本人が○をつけます。時間は一人3分の15分ぐらいにしましょう。始めてさい。 ☆互いに他者イメージを伝え合い、聞いた本人は記録していく。	て、具体例を示すなど、支援を行う。(TT)
シェアリング	●グループの仲間から伝えてもらったイメージのプリントを見て、グループ内で感想を話し合ってください。 また、相手が自分に対してどうしてそう思ったのか聞きたい人は尋ねてみて下さい。時間は一人2分として10分にしたいと思います。話し合いが終わったらその内容を発表してもらいますので、グループで発表者を一人決めておいてください。もし必要ならメモをとっても構いません。では始めなさい。 ☆各グループで話し合う。 ●それでは、グループごとに発表してください。 ☆発表の内容を全員で聞く。 ●最後に振り返りカードに感想などを記入してください。	・グループ全員が話し合えたか、終わったかどうかを把握する。(TT) ・発表者の発言に対して軽く繰り返す。

協議

- ・教師の指示をよく聞いていて、よく活動していた。
- ・自分の気持ちがいえない生徒が、いきいきと言っていた
- ・問題のある生徒がいる班は、あまり乗れないようであった
- ・班によって雰囲気は違っていた。
- ・男女が混合の方がよい。
- ・○の数の指示は、はっきり指定しておいたほうがよい。
- ・生徒の発表の場が少なかったため、項目を読むのは生徒の方がよかった。
- ・この学級でやるなら、ウォームアップ(アイスブレイク)はいらない。
- ・もしウォームアップをやるなら、「バースデーライン」という言葉)。
- ・もとのエクササイズを、各学級に合うようにアレンジして行う。
- ・このエクササイズのバックボーンは、ジョハリの窓である。
- ・「楽しく、ためになり、学問的な背景がある」が基本である。



③第三回研修職員会

「研究授業とSGE講師による指導」平成16年11月25日(木)

ア 研究授業指導案

	構成的グループエンカウンター 「宝さがし」指導案 指導者 1年2組担任 留奥
規恵	
1. 日 時	11月25日(木) 6校時

2. 学 級	1年2組 (29名)
3. エクササイズ名	「宝さがし」(協調性)
4. 本時の目標	課題解決の過程において、自分や相手の言動・感情を察知する。 また、 情報を伝え合うことによって、お互いのコミュニケーション能力を高めると共に級友への理解・好意を育てる。
5. 準備するもの	マジック・ヒントカード・模造紙・正解の用紙

本時の展開

活 動 の 流 れ	教師の指示【○】と予想される生徒の反応【☆】	留 意 点
導 入	○「宝さがし」に入っていけるように、宝から連想するものなどで盛り上げる。	○宝島の絵などを見せてムードを盛り上げる。
イ ン ス ト ラ ク シ ヨ ン	○今日はこの班で、ヒントを出し合いながらある課題を解決してもらいます。そのため必要なものをこれから配ります。 模造紙1枚、マジック1セットを各班に、また、グループへの課題を各自に配布 ○今、配った【グループへの課題】を見てください。ルールと方法を説明します。 「いくつかの島からなる『宝島』の様子を、絵や文字を使って模造紙で書き地区を完成させましょう」 【宝島の様子は、ヒントカードに全て書かれています。一人一枚ずつ配るので(中略 …)】一課題を読み上げる。 ○次のことに注意しよう。注意事項を読み上げる。 ・競争ではありません。 ・正解、不正解の問題ではありません。 ・(ルールの確認をする。課題カードのルールを読む)	○活動ができるように班に分かれる。(机を移動) ○指示書の内容に集中できるようにする。 ○ルールを板書する。 ○注意事項を板書する。
エ ク サ サ イ ズ	○ヒントカードを配ります。他の人に見せないでね 配布する。自分のヒントカードを決めて取る。 ○準備はいいかな。制限時間は25分です。始めてください。 ☆各自配られたヒントカードを黙読し始める。 ☆ポイントになりそうな情報を伝え始める。 ☆模造紙のポイントになる島などを書き始める。 ☆全体像が完成した班お互いのヒントを確認しあう。 ☆時間があれば、よりきれいな絵を仕上げる。	○ヒントカードで読めそうにない漢字にはふりがなをふっておく。 ○協力してできそうにない班は声をかけ、どのように取り組んだらよいかを考えさせる。
シ エ ア リ	○時間です。まだ途中の班もあるでしょうがここまでしましょう。 ○正解はわかりましたか。一正解のプリントを配る。 ○これから振り返りをします。班の友達に対して、どのような印象をもったか話してください。班での話し合いで気づいたことも話してみましよう。例えば「A	○一度全ての作業を終わらせる。 ○記入した内容を確認し、みんなで協力することの大

ン グ	さんのヒントカードの読み方、私たちが分かりやすいように少しずつ情報を区切っていて、上手でした。」という具合です。 ○振り返り用紙に記入し、今日の宝さがしの作業を通して、お互いに気づいたことや感じたこと、考えたことを話し合ってください。ー振り返り用紙を配る。 ○何人かの人が気づいたことを発表してもらいます。	切さに気づいた人に発表してもらおう。
ま と め	○一人が次けても作業が進まない経験を通過して、多くのことに気づいたでしょう。一人一人が意見を出し、班の仲間の言葉に耳を傾けることができたように、クラスの中でもそのようにできたらいいと思います。	○クラスの仲間として誰とも協力することができるようにしてほしいことを伝える。

イ 授業後の研究協議

- ・1年生にとって、このエクササイズは難しかったが、よく活動していた。
- ・素直な表情をして、活動していた。
- ・日ごろ、あまり話をしない生徒が、よく話をしていました。
- ・男女が仲良く活動をしていました。
- ・一人一人の生徒のタイプがよく見えた。
- ・最後の全体シェアリングがなかったのは、残念だった。



ウ 指導（GE講師 林教授による）

- ・時間配分がよく、エクササイズの時間もちょうどよかった。
- ・「むずかしい」という言葉は、言わないほうが方がよい。
- ・この課題は、インフォアレーションギャップと合意形成というパターンの課題であるが、1年生にとってはやや難しい。
- ・アレンジとして、リアルなものを取り扱ってもよい。
- ・国語ではコミュニケーション、道徳では協力、学活では結束という「ねらい」で取り組んでもよい。
- ・シェアリングの意味は、情意的なものの表現であった方がよい。
- ・グループごとのシェアリングの全体発表が、あった方がよい。

④ 成果と課題

(1) 構成的グループエンカウターの実践がもたらしたもの

構成的グループエンカウターを実践して、わずかの期間ではあるがエンカウターが学級経営に与えたメリットとして、次の二つがあげられる。

第一は、教師と生徒の関係がよくなった。「年度始めも声をかけやすくなった」「教師自身笑顔が増えた」。

第二は、ほめることができるようになった。「エンカウターは生徒のことを認めたり、ほめたりできる材料になる」。

次に生徒たちに対しては、人間関係ができたことが最大の効果だった。「男女関係も和気

あいあいとなり、早い段階でクラスの雰囲気になごむ」「なごやかになり安心して過ごせる教室になる」「親しく話す相手を増やすことができた」などである。

また、「クラスの活性化や係活動の活発化につながっている」「班の団結力が深まった」「クラスメイトの意外な一面を知り、いろいろな考えをする人がいることを体験的に知った」「自分の意見が他人と異なっても臆することなく述べることができ、また他人の意見も阻害することなく、受け入れる態度が育っている」など、担任からの報告があった。



(校内百人一首大会)



(全校レクリエーション大会)

(2)これからの課題

平成16年度から取組み初めて、わずか10か月の実践である。今後はグループエンカウターの手法を用いて、本格的にプログラムの開発を行わなければならない。

今後、さらに構成的グループエンカウターを中心とした教育活動を推進していくには、次のことが課題になると考えられる。

ア 校内研修会の継続と充実

構成的グループエンカウターのノウハウをさらに学習し、本校の生徒の実態に合ったエクササイズのコ案をしていく必要がある。そのためには、講師を招いての研修会を継続的に行い、よりよいモデル授業をみんなで体験すること、そして校内公開授業を継続し、指導案、エクササイズなどの見直しを常に行う必要がある。

イ エンカウターの実施に感じる難しさ。

特に時間を捻出する難しさである。とくに学校行事の準備や実践にかける時間と重なる傾向がある。行事を削減できない状況では、場当たりのエンカウターになりがちである。時間を確保するために、行事との兼ね合いや年間の見通しが必要となってくる。

ウ SGE(構成的グループエンカウター)推進担当者の位置づけ

多忙な学校生活の中、ともすれば構成的グループエンカウターの授業を行えば、それでおしまいとばかりに、事後の検討がおろそかになったり、振り替り用紙を吟味することなく終わってしまいがちである。そこで、必要なのは、各学年のSGE担当者の積極的な推進姿勢である。粘り強く構成的グループエンカウターの活用を常に働きかけることが大切である。

エ 人間関係づくりへの思い(学校長)

子どもの健やかな成長にとって最も重要な家庭環境が大きく変化している。核家族化や少子化とともに、両親の離婚や不仲、祖父母との仲たがひ。男女共同参画の社会がうたわれてはいるが、保護者会やPTA活動、各種学校行事への参加は母親任せの家庭も少なくない。特に中学生時代は父性の涵養が大切である。

一方、生徒たち一人一人に目を向けてみると、一つのことを為し終えるのに時間がかかったり、思いがはっきり言えなかったりする子がいる。目立つほどではないが、持病や障害を

持つ子もいる。

様々なことが絡み合って、仲間や学級での人間関係がうまく取れない生徒が徐々に増えてきているように思う。また、昔のように野山で遊びながら培うような人間関係づくりはもはや望むべくもない。

今や学校という学習環境の中で、いかに好い人間関係づくりをしていくかは避けて通れない、大きな課題である。元気なあいさつ、明るい笑顔が飛び交う中にも、家庭環境や友達関係などで、心を痛めている生徒が少なくない。そういう生徒たちの中には、学級での学習には入れないが、自分なりの学習や活動をしている生徒も数名いる。

学級や学校における生徒たちの人間関係も、最近少しずつ変わってきているように思える。特に女子にその傾向が強いようである。

「一緒に帰る約束をしたので、その友達を待っている。」という女の子。「どんなことがあっても、その約束は破れない。もし破ったら、大変なことになる。」と呟く。

Eメールによるトラブルも多い。女の子の力関係は、一度崩れると取り返しのつかないシコリを残すことがある。昨日の仲間は、明日どうなっているか分からない。

これからそういった仲間やグループ、小集団を、授業や学級活動などに、いかに意図的に活かすかを研究していきたいと考えている。

具体的には、構成的グループエンカウンターを全教職員が研修を積み、実践を重ねて、1学年から3学年までを見通した指導計画作りを目指したい。

【2年次】

①第一回研修職員会

「研究授業とSGE講師による指導」 平成17年6月29日(水)

ア 「四角パズル」指導案 指導者 1年1組担任 柴田隆司

1 日 時 6月29日(水) 5校時 第1学年ホール

2 学 級 1年1組(31名)

3 エクササイズ 「四角パズル」(協調性)

4 本時のねらい

- ・グループでの話し合いによって、互いの意見を尊重しあう心情をもつようになる。
- ・手作業を行うことによって、より緊密なふれあいができる。
- ・課題に付加をかけることにより、グループ間の協力や連帯が生まれる。

5 準 備

四角形パズル(6セット)、振り返りシート、クリップボード・筆記用具(生徒)

	教師の指示(○)と予想される生徒の反応(◆)	留意点
導 入	○この形は何ですか? ◆「正方形」「四角形」かな	正方形を見せる。(形の確認)
ウ オ ー ミ	○今日の班を作ります。 先生の右側から誕生日順に並んで1つの輪をつくりましょう。ただし、一切話してはいけません。それでは並んでください。 ◆誕生日順に並ぶ。	

<p>ン グ ア ッ プ</p>	<p>○では、確認してみましょう。 ◆順に誕生日を言っていく。 ○それでは、5～6人のグループを作ります。 ◆グループごとの列を作る。 ○それではリラックスするために、少し運動してみましょう。 ここに、木の板があります。3グループごと、この板の上に乗ってください。 ◆各グループ乗る。 ○では、その板から落ちないように、身長順に並び替えてください。 それでは始めます。 ◆移動しながら、身長順に並ぶ。 ○リラックスできましたか。グループごとに集まって座ってください。</p>	<p>1・2月、3・4月、 5月、6・7月、8 ・10月、11・12 月生まれの6 つのグループ を作る。 木の板の橋を 作る</p>
<p>イ ン ス ト ラ ク シ ョ ン</p>	<p>○さて、それでは本日の本題に入りましょう。 ○グループの仲間のよさや、素敵などところを見つけながら、協力して一つの課題をやり遂げましょう。 ○これから、各グループにいくつかのパーツに分かれたパズルを配ります。このパーツを組み合わせて、一つの正方形を作ってください。各グループからパズルをとりよせてください。 ◆各グループより一人取りに来る。 ○制限時間は、10分です。</p>	
<p>エ ク サ サ イ ズ</p>	<p>○それでは、袋の中からパーツを出して、パズルを完成させてください。 ◆グループごとに取り組む。 ○完成できたグループはありますか。 ○実は、今配ったパーツには、他のグループのパーツが1つ入っています。 ◆驚きの表情。 ○では、そのことを考えて、他のグループの進み具合を見ながら、自分のグループのパーツを探して、パズルを完成してください。 ○他のグループを見回りながら、自分のパーツを探す。</p>	<p>違うパーツがあることを告げるとともに、他の班にも注意を向けることを示唆する</p>
<p>シ ェ ア リ ン グ</p>	<p>○時間になりました。まだ完成していないグループもあるでしょうが、ここまでにしましょう。 ○正方形は、完成しましたか。正解のプリントを配る。 ○これから振り返りをします。 ○グループの友だちに対してどのような印象をもったか話してください。また、活動しているなかで気付いたことも話してみましょう。 ○振り返り用紙を配り、今日の活動を通して、感じたこと、お互いに気付いたこと、考えたことを話し合ってください。 ○何人かの人に気付いたことを発表してもらいます。</p>	<p>1度すべての作業を終らせる。 記入した内容を確認し、協力することの大切さをに気</p>

付いた人に発表してもらおう。

6 評価 ○振り返りシートにより、個人内評価ができる。

- ・ グループ内で、自分の意見がいえたか。
- ・ グループ活動に参加できたか。
- ・ 誰の意見に影響を受けたか。

イ 研究協議

- ・ ウォームアップでスキンシップを取り入れたが、慣れているのではやく課題ができた。
- ・ 負荷をかけたつもりであったが、思ったより負荷が小さすぎた。
- ・ エクササイズ的时间が短すぎたのではないか。
- ・ このクラスの生徒は身体接触をいやがっていないので、この教材でよかった。
- ・ エクササイズは図形を考えるとということであるが、図形が苦手な子にとっては面白みがあまりないのではないだろうか。
- ・ 日ごろから SGE がよく行われているようで、生徒が楽しみにしているようだ。
- ・ 教科の授業ではみられない、生き生きとした生徒の活動がみられた。
- ・ いろいろな活動があったので、中途半端に終わったところもあった。
- ・ シェアリングでの積極性は、どのようにつけていけばいいのだろうか。
- ・ M 君の動きをずっと見ていたが、みんなの中でよく活動していた。
- ・ 全体的によく活動しており、孤立している生徒がいなかった。
- ・ シェアリングのところで子ども達は、お互いの良いところをよくみていた。



ウ 指導（SGE 講師 林教授による）

- ・ 板に乗るエクササイズは、プロジェクトアドベンチャー（PA）であって、SGE ではない。
- ・ PA は目標達成が目的であるが、SGE はプロセス重視である。また、グループでの競争をさせたが、SGE では競争はさせない。
- ・ エクササイズで5人組をつくったが、板のりでのグループ分けの延長でつくった方がよかった。
- ・ エクササイズでは速いことを賞賛していたが、SGE では速さは競わない。
- ・ エクササイズを無言でやると、シェアリングのときに多く語ることが多い。
- ・ 身体接触は学年段階にあるし、はみ子（はみ出す子）がいなかった。



②第二回研修職員会

「ソーシャルスキルトレーニング（SST）講師による講義と演習」

日時 平成17年 12月15日 (木曜日) 午後3時～午後4時30分
講師 梅田 香子 (吉南病院 心理臨床士)
安田 三和子 (吉南病院 心理臨床士)

ア 目的

「人間関係づくり」におけるワークショップ形式の方法論は数多くある。我が校の研修は、構成的グループエンカウンター (SGE)を中心にやってきたのであるが、今回はソーシャルスキルトレーニング (SST) について研修を行う。

今回 SST を研修することによって、ワークショップ形式に共通することについて学ぶ。また、SSTを知ることによって、SGEの特徴をより明確にしていく。

イ SST (Social Skills Training)とは

- ・日常生活を送る上で必要な対人コミュニケーション能力、認知能力
- ・周囲の人々とのかかわりを効果的におこなうために、他者からのメッセージをうけとめ、その状況を判断し、自分の気持ちや考えを相手に伝達する能力
- ・コミュニケーション技能 (受信、処理、送信技能)

ウ ソーシャルスキルの学習・・・人はどのようにして、 ソーシャルスキルを身につけるのか

- ・インストラクション
- ・モデリング
- ・ロールプレイ
- ・正のフィードバック
- ・定着化 (般化)



エ SSTの特徴

SSTとは、学習理論や行動療法の技法を援用しながら、日常生活をよりよく送るための対処技能を獲得していくための集団 (個人) 療法

- ・本人の具体的な行動 (スキル) をかえていくものである。
- ・本人が身につけたいと望むスキルを取り上げる
- ・肯定的な面を見出し、プラスのフィードバックを行う。
- ・安心できる、受容的な雰囲気がある。
- ・個人、集団のどちらでもできる。

オ SSTの方法 (枠組み)

- ・SST参加のルール
- ・よいコミュニケーション
- ・SST基本訓練モデル (送信技能の向上)
- ・問題解決技能訓練 (処理技能の向上)

カ 学校生活や社会生活で、大切なソーシャルスキル（4つの基本スキル）

- ・スキル1 肯定的な（うれしい）気持ちを伝える。
- ・スキル2 頼みごとをする。
- ・スキル3 他人の言うことに耳を傾ける。
- ・スキル4 否定的な（嫌な）気持ちを表現する。



オ 実習

- ・自己紹介
- ・物あてクイズ
- ・吹き出しを使って
- ・問題解決技能訓練

③第三回研修職員会

「研究授業とSGE講師による指導」 平成18年3月1日(木)

ア 「私の仲間はだれ？」学習指導案

指導者 藤井博典

1 題材 「私の仲間は」

2 指導の立場

3 目標

- ・仲間はずれに気付くことができる。
- ・級友の多様な個性を見つけ、お互いがそれを認め合うことが、仲間はずれの解決に大切なことを理解することができる。
- ・学習したことが実際のグループ作りのときに発揮できるようになる。

4 指導過程

	学 習 活 動	教 師 の て だ て
イ ン ス ト ラ ク シ ョ ン	<p>1 仲間はずれとは、どんなことかを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無視する、多数対少数になるなど。 <p>2 本時のエクササイズの説明をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>今から君たちの背中に、色の違う2種類のシールを貼ります。このシールは、その人の特徴を表しています。例えば、使う言葉だとか、性格だとか、趣味などです。残念ながら、自分では自分のシールの色は見えません。</p> <p>今日は、このシールの色が同じ人でグループを作ってもらいます。ただし、自分のシールの色を見てはいけません。また、人に教えてもいけません。グループを作ると</p> </div>	<p>1 事前アンケートで仲間はずれとはどんなことかを書かせておく。</p> <p>2 エクササイズの説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シールの色が表す意味について ・グループ作りのときの注意について

	<p>きは、黙って作ります。</p> <p>・生徒の背中にシールを貼る。</p>	<p>・教師2人でシールを貼っていく。黄や青のシールを貼られ、仲間はずれの体験を受ける生徒は、それに耐えられるようしっかりした生徒を事前に選んでおく。</p>
<p>エ ク サ サ イ ズ</p>	<p>3 シールの色が同じ生徒でグループを作る。</p> <p>まず、2色とも同じ色でグループを作しましょう。→なかなかできない。</p> <p>では、どちらか1色だけで良いことにします。ただし、できるだけ大きなグループを作ってください。</p> <p>4 黄や青シールを貼られた生徒が、仲間はずれになっていることに気付く。</p> <p>5 黄や青のシールを貼られた生徒が、仲間はずれのにならない方法を考える。</p>	<p>3 グループを作るときの注意を確認する。</p> <p>・黄や青のシールを貼られた生徒が孤立するような状態を作り出す。</p> <p>4 大勢の生徒で少人数の生徒を見つめさせる。</p> <p>5 左のシールの色でグループを作ればよいことに気付かせる。</p>
<p>シ エ ア リ ン グ</p>	<p>6 4・5のとき、どのように感じたかをそれぞれ班で話し合い発表する。</p> <p>・学習プリントにまとめる。</p>	<p>6 黄や青のシールを貼られた生徒には、気持ちをケアする言葉かける。</p>
<p>ま と め</p>	<p>7 本時のまとめをする。</p>	<p>7 「仲間はずれ」を解決するためにはどうすればよいかを押さえる。</p>

イ 研究協議

・ 孤立的な状況を作り出すために、色を2つの大きいグループと2つの小さいグループになるようにした。より孤立感をもたせるために、4人をみんなの前に立たせた。また、仲間はずれになる生徒は、孤立に耐えられる生徒をあらかじめ決めておいた。

・ 最終的なグループは、男女比や構成メンバーなども考慮して決めておいた。

・ エクササイズでは、全員がよく活動していた。

- ・ 4人の孤立状態を解消するための意見が、生徒の
- ・ 説明が長かったように感じた。
- ・ 活動的な授業であった。ただ、このエクササイズをどのようなクラスの状態で行うかは、よく考えておく必要がある。
- ・ 生徒のようすをみると、日ごろからSGEがよく行われているように思われた。
- ・ 学年も終わりに近づいているので、よりレベルの高いエクササイズの方がよかったように感じた。



中からわりと簡単にでた。

・ 仲間はずれを作り出すために、大きいグループと小さいグループにしたのであるが、このような状況が悪い状況とはいえないのではないか。

・ 「仲間はずれ」ときくと「人権」「差別」ということを考えるのだが、はたしてこの授業のように楽しくてもいいのだろうか。

・ 今回の授業をみると、このクラスでは人間関係づくりが、よくできているように感じた。

・ 最初に話した性格や趣味の違いと、色のちがいに関係がなかった。

・ SGE では時間がきちんと決められて行われるのであるが、今回の授業ではそのような時間の区切りがなかった。



ウ 指導 (SGE 講師 林教授による)

・ 時間配分はよかった。

・ 終わりのグループ分けでは、男女比率は考慮しなくてもよい。

・ 仲間はずれにした生徒に、その場でインタビューした方がよい。

・ 均等なグループができたときに、机なしで自分の色をあてさせるゲームを取り入れて、感じたことを発表しあってもよかった。(机にすぐつくとデスクワークのようになる。紙に書かないシェアリングもある。)

・ 今回の授業のように仮想的な「仲間はずれ」をつくることは、価値がある。

・ アスピーは課題設定型でグループは最後まで小グループが続くが、SGE ではプロセス(人間関係づくり)重視であり、グループも離合集散がある。

・ シェアリングはすぐにプリントに書くのではなく、発表した後プリントに書くという



方法も需要である。

④ 成果と課題

構成的グループエンカウンターに取り組んで、今年度で2年目である。現時点での状況を成果と課題という視点から考察してみる。

ア 教師

- ・1年目ではSGEに対する理解不足から、適当にSGEの各活動を行っていた。例えば、時間がないからといってシェアリングを短くしたり、省略したりしていた。しかし今では教師がシェアリングの重要性を理解しており、きちんと授業に組み込むようになった。最近ではその重要性を認識した上で、より深まりのあるシェアリングはどうかという議論をすることもあった。
- ・教師はとかく競争させたり、比較したりする。ゲームなどでは、誰がはやいかどの班が最初かというふうに競わせる。ところがSGEはプロセス重視であり、基本的には競争させない。このためにSGEを日ごろから実践するうちに、結果とは別の視点である「過程」という視点が持てるようになった。
- ・教科の授業では、一斉授業の形をとることが多い。ところがワークショップ形式のSGEでは生徒の活動中心である。教師は生徒の発言や行動に細心の注意をはらい、授業をコントロールしなければならない。このことは教師の授業の力量を高めるのにたいへん有効である。

イ 生徒

- ・SGEはワークショップ形式であるので、一斉授業ではあまり目立たない生徒も活動しなければならない。このことより生徒も自分のいろいろな面が表現できる。
- ・中学生では自分の気持ちや意見を言うことに、恥ずかしさや照れを持つものも多い。しかしSGEでは必ずシェアリングを行う。このためSGEを何回も行うことによって、自分の気持ちや感想を言うことが気楽にできるようになる。
- ・SGEの活動の中では、生徒が日ごろでは見せない姿を見せることが多いので、お互いの深く知り合えることになる。実際「～さんの良いところを発見した」「～君は意外と活発だった」という意見もよく見かける。

ウ 課題

- ・年間3回の講師を迎えての研究授業や指導、講話を行っているのであるが、SGEの理論や方法論を全員の教師が身に付けるのには、やや研修が不足している。教師各自の日ごろからの研修や実践が必要である。
- ・SGEに対する教師の熱意に温度差がある。ある教師は非常に研修と実践を積み重ねているが、別の教師はあまり興味を持っていないという現実もあった。SGE担当のものがいかに教師集団を引っばっていけるかが鍵になる。
- ・本校で行われるSGEのエクササイズは、基本的には出版されている図書からの引用である。しかし実施されるときには、エクササイズやシェアリングはそのクラスに合わせて変えたものにしなければならない。またSGEを行うには、多くの準備が必要である。多忙な学校生活のなかで、教師がこのことを行うのには難しい面が多い。
- ・今年度の研究協議でも出たことであるが、深まりという点で疑問がある。特にシェアリングのときお互いの意見や感想を発表しあうのであるが、ただ意見を言っただけで終わったという感じがしてしまう。シェアリングのやり方には、より活発な議論と研修が必要で

ある。

・年間計画を立てて行っているのであるが、はたしてどれぐらいのSGEをすれば効果があるのかが疑問点である。今の学校では、授業時間の確保がいわれ続けているし、行事も多くある。このような現状の中、最低限どれぐらいのことを実行すればよいのか、どのようなエクササイズをすればよいのか、まだまだ研修を深める必要がある。

エ 2年次をふり返って（学校長）

年々、人間関係づくりが難しくなっている。本校にもパソコンや携帯のメールで人間関係を壊す生徒がいる。仲間に入れない生徒、教室には入れない生徒もいる。

そんな中でも、多くの生徒たちは体育祭や文化祭で、あるいは合唱コンクールで、また学年行事や生徒会活動で、目を見張るような成果、そして協力姿勢を見せる。

SGEやSSTの理論研修と実践が、目には見えないが、学級や学年、生徒会の活動、人間関係づくりに役立っていることは間違いない。これからも生徒同士だけでなく、教職員、保護者との人間関係づくりを柱とした学校経営を進めて行きたいと考えている。

【3年次】

① 第一回研修職員会

「研究授業と研究協議およびSGE講師による指導」 平成18年6月21日（水）

○「私をととえと」指導案 指導者 1年1組担任 迫田 淳

- ・日 時 6月21日（水）5校時 1年1組学級
- ・エクササイズ 「私をととえと」
- ・本時のねらい

相手のことを考え話を聞く。

級友や自分自身の人物像を検討し合い、自己を新たな視点で見つめ直して、相互理解を深めていく。

- ・指導過程

	学 習 活 動	教 師 の て だ て
イ ン ス ト ラ ク シ ョ ン	1 「例える」の意味について理解する。 2 本時のエクササイズについて理解する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">5つの図形を見せます。自分の生き方や性格、人柄を総合するとどの図形に最も近いでしょうか？ 考えてみましょう。 また、その図形を選んだ理由を具体的に説明しましょう。</div>	1 人の生き方や人柄を花に例えて説明 する。 2 エクササイズについて説明する。必ず1つ選ばせ、理由を具体的に書くように指示する。
エ	3 ワークシートにある5つの図形を見て、それぞれの図形から感じたイメージをシートに記入する。	3 かけない生徒は空欄でもよいことを告げる。

ク	4 自分の感じに一番近いものを1つ選 び、選んだ図形と選んだ理由をワーク シートに記入する。	4 必ず1つ選ばせ、理由を具体的に書くように指示する。
サ	5 2人組になって、自分の選んだ図形と、選んだ理由を相手に説明する。 (5分間)	5 ペアは、席の隣同士でつくる。 自分が相手をどう見るか等について、率直に意見や質問を交換するように助言する。
サ	6 4人組になる。(2分間)	6 自分と違う図形を選んだ友達を見つけ組むように指示する。
イ	7 4人組での話し合いについて、やり方を理解する。 (10分)	7 4人がそれぞれのパートナーについて紹介するよう説明する。そのとき、だれかが進行役になって話し合いを進めるように指示する。
ズ		
シ	8 今日の活動を行って感じたことや考えたことを、グループで話し合う。	8 自由な雰囲気での話し合いが進むように配慮する。
エ	9 どんな感想がでたか、代表者を決めて発表する。	9 代表以外でも発言をしたいものがあれば取り上げる。
ア		
リ		
ン		
グ		
ま	10 全体を通しての感想をワークシートに記入する。	10 いくつかの意見を取り上げながら各人のもっているイメージ違いについてはっきりさせ、他者の感じ方や考え方の違いを認め、互いを理解し合えるように助言する。
と		
め		

○ 研究協議

- ・最初の印象、イメージを聞いたときにその答えに左右される。一人一人が感じ方がちがう。
- ・いろいろな場面で相手の話を聞いて意見が言えた。
- ・2人組でペアになったときに「どう見えたのか？」発表させてみたらどうか。
- ・「自分のことをしっかり聞いてもらえて安心感を得る」そういう訓練が必要なのかな？
- ・空枠をつくって、自分で図形を描いてみてはどうか。
- ・日頃から、「自分の何かを伝えたい」という気持ちをもたせたい。
- ・「相手のよさ」という視点をしっかり押さえておくべき。
- ・教師から違いを認めながらという意見を押しえたかった。



○ 指導助言 (SGE 講師 林教授による)

- ・グループを作るときに、生徒にグループの人数を心配させない方がよい。
- ・例で「花」を使ったがそれよりも「動物」にたとえた方が生徒はイメージしやすかったのではないだろうか。

- ・図形を言葉に変換してから、自分の図形を選んだ方がよい。
- ・図形の選択肢はいくつでもよい。「生きることは選択することであり」選べなかった生徒もいずれはどれかを選ばなくてはならない。

② 第二回研修職員会

「研究授業と研究協議およびSGE講師による指導」 平成18年10月11日（水）

○「学校選びの条件」指導案 指導者 3年1組担任 石川昌史

- ・日 時 10月21日（水）5校時 3年1組学級
- ・エクササイズ 「学級選びの条件」
- ・本時のねらい

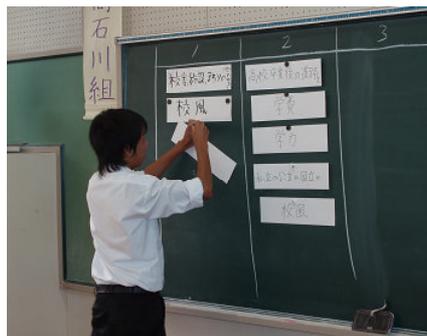
進路決定を目前に控えた生徒達に自分自身をもう一度見つめ直す機会にする。

級友の進路に対する考えを知ることにより、進路に対する不安や迷いを和らげ、あたたかい雰囲気の間人間関係をつくる。

- ・指導課程

	学 習 活 動	教 師 の て だ て
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のエクササイズ「学校選びの条件」のねらいを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級のほとんどが高校進学希望であることを知らせる。 ・本時のエクササイズで本音を語ることができ、友達の考えを聞くことができるようにする。
展 開	<p>(1)各自がワークシート1をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①～⑮に○をつける。 <p>(2)各自がワークシート2をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1の①～⑮の中で「とても重視する」に○をつけた中から、さらに重視するものを5つ選んで2に書く。 ・具体的な条件は自分の考えを簡単に書く。 <p>(3)2で書いたことを、各班で一人一人が順に発表する。</p> <p>(4)班ごとに2の内容を5つに絞りカードに記入する。</p> <p>(5)1班から順に、黒板に貼ったものについて、まとめた理由と感想を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートが進まない生徒にはそばまで行き、具体例を示し、ヒントを与える。 ・自由な雰囲気を書くことができるように配慮する。 ・友達の意見を聞かないで、まずは自分の考えを記入するようにする。 ・追加する項目があればその他の欄に記入してもよいことを助言する。 ・友達の発表をしっかりと聞かせ、友達の意見を否定したりさせない。 ・どうしてもいいたくないところはパスしてもよいことを伝える。 ・友達ひとり一人の意見を大切にしながら、班ごとに5つにまとめさせる。 ・各班の発表をしっかりと聞かせる。
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての班の発表を聞き、気がついたこと、新しくわかったことや感想を振りかえり用紙に書く。 ・感想や気がついたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エクササイズをやりながら思ったこと、気づいたこと、友達のことで新しく発見したことなど、何を書いてもよいことを伝える。

○ 研究協議



- ・他教科での授業の印象として、4月当初は2人組の活動をして男子、女子と別れていたが今は誰とでもスムーズに組める。
- ・進学しないという生徒がいたらどうすればいいのか。
- ・個々人がじっくり書ける時間が十分にあった。素直な意見が書けていた。
- ・メンバー構成や班の作り方について、ふざけた雰囲気にはさせてはいけないし、話し合いができないグループになったときにどうすればいいのか。
- ・結構真剣に書いている。グループの中で意見の対立があって、よかった。
- ・昨年、同じエクササイズを行ったが、昨年との違いを再認識することは重要だと思った。ワークシートの項目が多すぎ（先生が用意しすぎでは）ではないだろうか。意識して重要な項目をぬいておき、生徒の中から発表させてみてはどうか。
- ・進路というのは、ものすごく個人的なものである。いろいろな家庭があり意見の対立があると思う。でも意見の対立はエンカウンターにそぐわないのではないだろうか。
- ・個人の意見を大切にす。他人の意見を聞いて、認める。ことがSGEであろう。

○ 指導助言（SGE 講師 林教授による）

- ・もし、今回の授業をエンカウンターっぽくやるとしたら、ワークシートの項目を8つくらいにする。まずは、ペアでインタビュー形式にしてアンケート用紙を完成させる。答えも「○、×、△」くらいにして答えやすくする。
- ・（一人で20分間作業するのはエンカウンターらしくない。）他人とのやりとりがない。
- ・2人でアンケートを完成させてから話し合いの関係を4～5人のグループに発展させていく。
- ・指導案の学習活動の(4)のように「班ごとに2の内容を5つに絞りカードに記入する。」のようにグループの統一見解を出すのは「エンカウンター」らしくない。できれば、人気の歌謡曲Best 5くらいの遊び感覚で項目を出す方がよい。
- ・エンカウンターの必要十分条件として、諸富先生の考えでは、「価値観の明確化」国分先生の考えでは、「自己発見・自己開示」ということであり、2通りの考え方があり。諸富先生のやり方なら今日のでOKだろう。国分先生のやり方であれば、「思考開示・事実開示・感情開示」が必要である。例えば、今日の生徒の意見に「評判の悪い学校へ行ったらみじめ」というのがあったが、まさに感情の開示（本音）であった。
- ・集団討議のあり方＝エンカウンターではない。エンカウンターはリーダーを決めなくてよい。統一見解がでなくてよい。オープンエンドで終わってよい。



- ・学費が少ない方がよい。・・・親の代理の意見。学費が高くても自分が行きたいところに行くんだ。・・・という本音がほしい。「自己開示」
- ・もし、クラスに就職希望の生徒がいたら絶対にやってはいけないエクササイズである。気になる生徒が同じグループにならないようにシャッフルすることは必要。配慮した方がよい。
- ・大学生でもそうだが、男子生徒が元気がない。発表にしかたは、ソーシャルスキルトレーニングである。トレーニングによって発表力をつけさせてほしい。(どの教科、どの場面でもできなくてはいけない。) 要は「いかに本音を引き出すか」である。
- ・黒板発表のしかたの例 (例1) グラフっぽく線で結んで比較していく。

③ 3年間を通しての取り組みの成果と課題 (まとめ)

○本校が、構成的グループエンカウンターに取り組んで3年が終わろうとしている。この3年間を通しての取り組みの成果と課題をまとめみる。

・教師

1年目ではSGEに対する理解不足から、適当にSGEの各活動を行っていた。例えば、時間がないからといってシェアリングを短くしたり、省略したりしていた。しかし今では教師がシェアリングの重要性を理解しており、きちんと授業に組み込むようになった。最近ではその重要性を認識した上で、より深まりのあるシェアリングはどうなすべきかという議論をすることもあった。

3年目になり、研究授業の中でのワークシートの活用やシェアリングについて、各教師が、「もし、自分がこの授業を行ったら」と仮定して、いろいろな方法をより具体的に検討できるようになったように思われる。

教師はとかく競争させたり、比較したりする。ゲームなどでは、誰がはやいかどの班が最初かというふうに競わせる。ところがSGEはプロセス重視であり、基本的には競争させない。極端に言えばオープンエンドでの終了でもよいと言える。このためにSGEを日ごろから実践するうちに、結果とは別の視点である「過程」という視点が持てるようになった。その「過程」の中に「思考開示、事実開示、感情開示」が含まれるように授業を仕組んでいければよい。

教科の授業では、一斉授業の形をとることが多い。ところがワークショップ形式のSGEでは生徒の活動中心である。教師は生徒の発言や行動に細心の注意をはらい、授業をコントロールしなければならない。このことは教師の授業の力量を高めるのにたいへん有効である。3年間を終えるにあたってこの点での教師の授業力は確実に向上してきた。

・生徒

SGEはワークショップ形式であるので、一斉授業ではあまり目立たない生徒も活動しなければならない。このことより生徒も自分のいろいろな面が表現できる。一斉授業では自分の意志を表現できない生徒でも小集団の中で自分を探っていくことにより、より明確な自己開示ができるようになった。

SGEでは必ずシェアリングを行う。このためを何回も行うことによって、それまでよくわからなかった自分を発見できるようになる。また、自己開示を目標とするため自分の気持ちや感想を必ず言う場面がでてくる。これがお互いを深く知り合えることにな

りより気楽に発表できるようになっている。

・まとめ

これまで、年間3回の講師を迎えての研究授業や指導、講話を行った。ただしこれだけではSGEの理論や方法論を全員の教師が身に付けるのには、やや研修が不足している感があったのであるが、(クラスの雰囲気、状態にもよるが)とにかく教師が日ごろの授業での実践を積み重ねることにより向上がみられた。

ただし、年度が替わるたびに教師の異動によるメンバーの変化があり、まだまだSGEに対する教師の熱意に温度差があるのは事実である。これまでの3年間の実績をもとに、いかに人間関係づくりにおいてSGEが有効であるかを、これからもことあるごとに説いていきたい。

年間計画を立てて行っているのであるが、はたしてどれぐらいのSGEをすれば効果があるのかが疑問点であった。このことについては、それぞれのクラスで条件(生徒一人一人の個性によって)が変わってくるものでもあり、かならずしも計画通りにエクササイズをおこなう必要はない。また、これだけやったら成果が現れるというものでもない。このことから、年間の見通しを考慮しながらも、そのときそのときのクラスの状態に合わせて取捨選択していけばよいのではないかと思われる。

以上のことから、研究の仮説であった①「構えのない気楽な人間関係」を築くような実践活動を行うことにより、生徒と生徒、教師と生徒の人間関係は望ましいものに変容したか?また、②「認め合い高めあう関係」を築くような実践活動を行うことにより、生徒と生徒、教師と生徒の人間関係は望ましいものに変容したか?どうかであるが、SGEを継続的に授業で実施することで、より多くの生徒の間で「思考開示、事実開示、感情開示」がおこなわれる。そのことがお互いの間であった「構え」を少しずつ無くしていくことは事実である。同時に相手のことを認める雰囲気をつくりだし、生徒と生徒の人間関係は望ましいものに変容していったように思える。SGEのエクササイズについて、生徒は興味関心をもって迎えてくれる。「次に先生はどんなことを用意してくれるのか」と期待してくれる。また、エクササイズの中で教師も「自己開示=思考開示、事実開示、感情開示」を行うので、教師と生徒の距離が縮まるのは確かである。だが、あくまでエクササイズをリードするのは教師であって、その中では「構え」を無くすのは容易なことではなく、「構えのない気楽な人間関係」を教師と生徒の間で築くような実践活動を行うのは非常に難しいことであった。

このように、当初の仮説通りの実践活動を行うことはできなかったが、より、それに近い実践活動を行うことにより【教師と生徒、生徒と生徒の間に「望ましい人間関係」=「対等な関係」「協調し合う関係」「信頼しあう関係】が築かれ、本校の教育活動がより充実し大きな成果を得たものと信じる。

○ 3年次をふり返って(学校長)

家庭や地域社会が変化する中で、社会の教育力が低下し、また学校、教師への信頼が薄れていく中、社会性が不足している子ども、自立ができない子ども、不登校を起こす子ども等、子どもを取りまく課題は山積している。このような状況の打破を目指し、本校では3年間、山口大学の林先生の指導を仰ぎながら、グループエンカウンターによる生徒の人間関係づくりを進めてきた。生徒と生徒・教師と生徒の望ましい人間関係の構築を目指すことで、子供たちが安心して登校し学べる学校、生徒・保護者から信頼される学校(教師)づくりに取り組んできた。

教師は構成的グループエンカウターの手法を学びながら、授業や生徒会活動および全校集会等でその手法を取り入れ実践することで確実に力をつけてきている。また、生徒も低学年での級友間のトラブルや自立の遅れから不登校気味になる生徒が見られるが全体としては互いを認め合う心や態度を身につけてきているし、体育祭や文化祭等でその成果をしっかりと発揮してくれている。このことは、3年間のSGEやSSTの理論研修と実践の成果であるといつて間違いないであろう。

今年度で、3年間の研修を終えることになるが、これまでの成果を生かしながら今後も構成的グループエンカウターによる人間関係づくりの研修をより組織的に継続していきたい。教師同士が日頃から互いに取り組みの様子を公開し、互いに意見交換をすることで教師の資質向上を図り、また、実践を積み重ねることで生徒・保護者・教師のよりよい人間関係づくりを構築していくことを一つの柱として、よりよい学校づくりを目指したいと考えている。

最後になりましたが、3年間ご指導をいただきました、山口大学の林先生をはじめ関係各位に心よりお礼を申し上げます。